

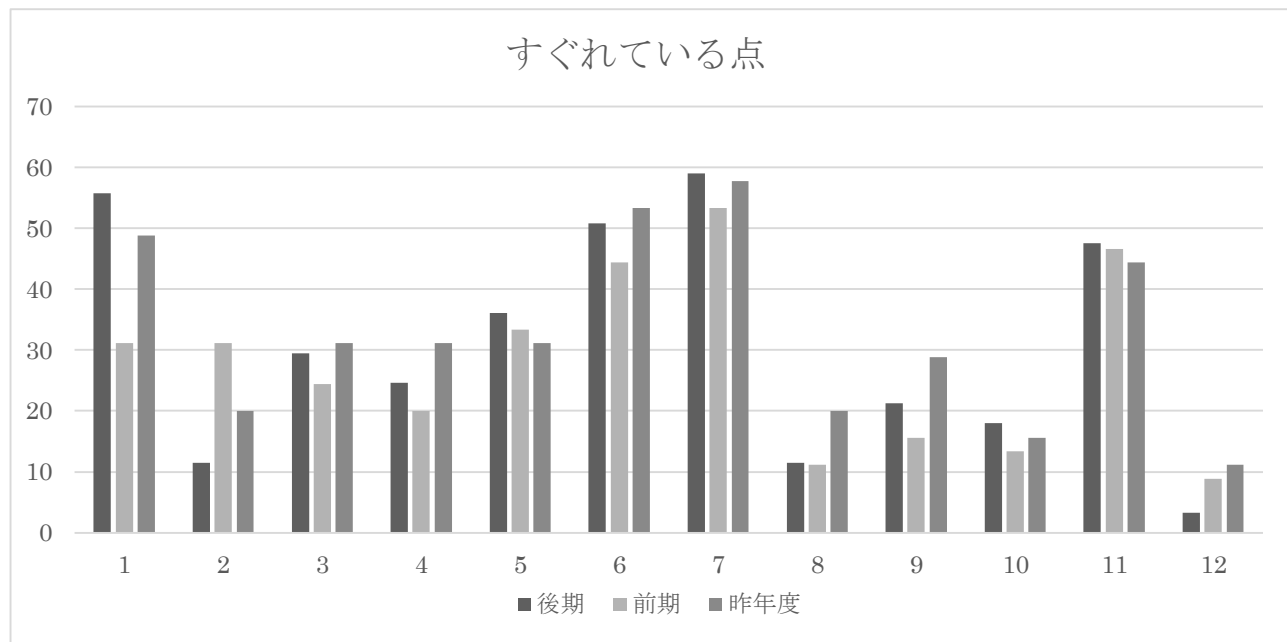
平成27年度 後期公開授業週間(11/2～11/20)のまとめ

観 点	観 察 する 項 目
①指導内容	1. 教材が適切に使用され、十分な教材研究がなされている。
	2. 指導内容のレベルは、生徒の学力に照らして適切である。
②授業展開	3. 本時の目標達成に向けて、授業展開は適切である。
	4. 生徒の理解度・到達度の把握が随時行われている。
③指導形態	5. 生徒の理解を促すように、発問や板書が工夫されている。
	6. 生徒個々が、授業への参加意識を持てる場が設定されている。
④学習態度	7. 生徒は、授業に集中している。
	8. 生徒は、学力の定着のための努力（予習・復習、ノート等）をしている。
⑤思考過程	9. 生徒に論理的思考力を身に付けさせる授業展開になっている。
	10. 既習範囲や他教科の知識との関連に気づかせる授業展開である。
⑥学習反応	11. 生徒は、発問や学習課題に対して積極的に取り組んでいる。
	12. 生徒は、わからない点を積極的に質問している。

* 上記の表は、授業参観カードの観察のポイント表

1、各評価について

【すぐれている点】(昨年度及び今年度前期、後期の3回を比較したグラフ)



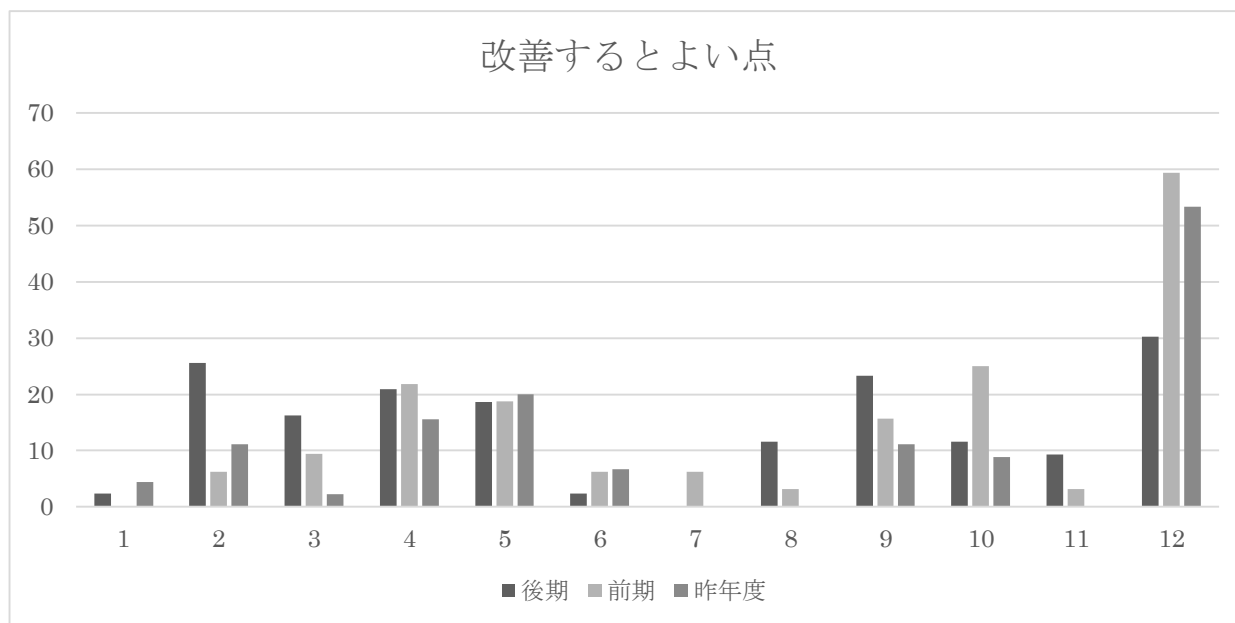
7、生徒は、授業に集中している。(59%)

1、教材が適切に使用され、十分な教材研究がなされている。(56%)

6、生徒個々が、授業への参加意識を持てる場が設定されている。(44%)

* 上記の番号は、授業参観カードの観察のポイント表の番号と同じ

【改善するとよい点】（昨年度及び今年度前期、後期の3回を比較したグラフ）



- 1 2、生徒は、分からない点を積極的に質問している。(30%)
- 2、指導内容のレベルは、生徒の学力に照らして適切である。(26%)
- 9、生徒に論理的思考力を身につけさせる授業展開になっている。(23%)
- 4、生徒の理解度・到達度の把握が随時行われている。(21%)

*上記の番号は、授業参観カードの観察のポイント表の番号と同じ

○ ICTの活用など、授業改善にともなう教材研究の充実がうかがえる。それにあわせて、指導形態への評価も上がっている。
 また、その授業に対して生徒も集中して積極的に取り組んでいる。

△ 上記のことに対して、ICTの活用などが先行しすぎると、生徒の定着度とのずれが生じている。生徒の実態に適しているか、その時間の目標達成のための活用を迫りたい。

2、SGHに関する授業改善

【コミュニケーション能力の育成】の実践例

- ・ペアでの活動により、全員に話す機会を与えていた（英語）

【言語活用能力の育成】の実践例

- ・時事問題を取り上げ、“今”活用できる英語が身につくように工夫されていた（英語）
- ・問題演習の時間に、相互に教えあうことを取り入れていた（理科）
- ・ゲームの途中で作戦を考えさせるなど、会話をさせながらゲームに取り組ませていた（体育）

【課題解決能力の育成】の実践例

- ・課題→実験→プリント→映像→意見交換、のステップが明確であった（理科）
- ・世界の出来事を他人事と捉えず理解するよう促し、自分の考えを持つ素地を育てていた（社会）
- ・複数の意見が出ることによって解決への筋道をはやく発見できることが実感できる内容（LHR）